



南九州大学集中講義

ニホンカモシカの保全から考える環境問題

綾ユネスコエコパークが分布の南限となつているニホンカモシカの持続的な保全をテーマに、南九州大学の集中講義形式の演習が8月29日～31日、綾ユネスコエコパークセンターを拠点に行われました。3年目となる今回は、人間発達学部・子ども教育学科の学生が学びを深めました。

環境問題は広く深く複雑です。また、私たちの日常生活をはじめ、産業・経済・社会・国際関係・法制度・政策などと直接的にも間接的にも関連しています。このような複雑な課題を取り扱い解決へと向かうためには、環境問題に関する多面的な理解はもちろん、知識や経験を関連付けて思考する能力が必要となります。

そのため、この演習は教員志望の学生にとつて、新・学習指導要領が求める「汎用的な知識・技能」「教科横断的な学び」の指導力向上

に寄与することが期待されているのです。

具体的には、環境教育論の実践編として、国の天然記念物であり綾ユネスコエコパークの象徴的な生き物でもある「ニホンカモシカ」に焦点をあて、ニホンカモシカを保護する立場⇨文化財行政・研究者、競合するニホンジカの駆除に



ニホンカモシカ

森林を守る立場⇨林野行政の関係者に話を聞き、多様な視点から問題をとらえる能力を養います。さらに、ニホンカモシカ保全のために「教育学の視点」でよりよい解決方法を考案していくことで、教育者としてのスキルアップを図る内容です。

学生は、まずオンラインで各分野の関係者から話を聞き、九州のニホンカモシカが激減していることや、個体数の減少の原因となつたニホンジカを減らすために行われているさまざまな活動について学びました。

その後、照葉樹林の中に足を運んだ

学生は、食害を防ぐために設置された防鹿ネットの中と外とでニホンカモシカのエサとなる植物の数量に差異があるか調査しました。また、猟友会がシカ駆除に使うワナを見学し話を聞きました。

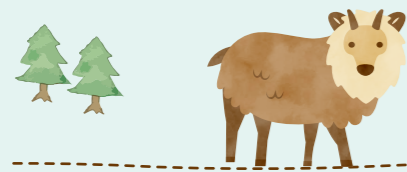
綾ユネスコエコパークの代表的な生き物であるニホンカモシカを守るために必要なことは何なのか。こうした演習が、地元住民も環境問題について真剣に考えるきっかけになればと期待しています。



ニホンジカを捕らえるワナの見学



防鹿ネット内外での植生調査



綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
感染症の影響による休館などの情報はホームページで随時更新します

「シジロヤマドリ」

「宮崎県の鳥」にも選ばれている本種。九州南部固有のヤマドリ仲間、名前はオスの腰が白くなることからつけられました。

オスの体は、トレードマークの白い腰と鮮やかな赤い顔、そして長くなる尾羽が特徴で、ほかの鳥と間違われることはほとんどありません。尾羽まで入れると130cmほどあるオスに対して、メスは55cm程度と小さく地味な色合いをしています。エサとなる植物の種子や葉、昆虫などを探して林の中を歩いており、まれに道路上でも姿を見ることがあります。ただし、動きが速いうえに警戒心が強くすぐに隠れてしまうため、写真を撮ることが難しい生き物のひとつです。



NEWS!

自然観察指導員講習会



(公財)日本自然保護協会は、全国各地で自然観察指導員講習会を開催しています。綾町では、11月19日(土)～20日(日)に、照葉大吊橋周辺で開催される予定です。

自然が好きな仲間と一緒に「自然観察から始まる自然環境保護」に取り組む。そんな自然観察指導員になってみませんか。全国で3万人近いメンバーが活躍しています。詳しくは決まり次第、綾ユネスコエコパークセンターのホームページなどお知らせします。多くの皆さんの参加をお待ちしています！